

会 議 録

会議名	平成 26 年度第 3 回八王子市博物館協議会	
開催日時	平成 26 年 12 月 16 日(火)午後 6 時 30 分～8 時 15 分	
開催場所	八王子市こども科学館会議室	
出席者	委員	小野一之、大村のり子、佐藤栄子、佐藤一、田野倉宏和、藤岡換太郎、 本田怜子、吉田幸子、 (50 音順)
	事務局	牛山清志こども科学館長、田島巨樹郷土資料館長 (文化財課長)、森融こども科学館専門幹兼主査、戸井晴夫郷土資料館担当主査、中村善行郷土資料館担当主査
欠席者	柿崎博孝、山中幸生	
議 題	協議事項 1. 平成 26 年度八王子市こども科学館及び八王子市郷土資料館 (4 月～11 月) 事業実施状況について 2. その他	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	会議次第 平成 26 年度 (4～11 月分) こども科学館事業実施状況 平成 26 年度 (4～11 月分) 郷土資料館事業実施状況	

<p>会議の内容 (要旨)</p>	<p>八王子市こども科学館の4月～11月分事業実施状況について森こども科学館専門幹兼主査、八王子市郷土資料館の4月～11月分事業実施状況について八王子市郷土資料館中村主査から説明。</p> <p>— 質疑応答 —</p> <p>小野会長 それでは委員のみなさんから質問をお受けしたいと思いません。</p> <p>佐藤一委員 毎回会議に出席して思っていることですが、両館の事業実施報告の表記の方法を統一することはできないのでしょうか。私は郷土資料館の表記の方がいいと思います。またこども科学館の出前講座の内容を表記した方がいいと思います。こども科学館の資料4.講座等実施状況の中にある『宇宙の学校』というのは何ですか。</p> <p>森専門幹兼主査 連続の講座と考えていただければと思います。</p> <p>佐藤一委員 こども科学館の職場訪問の内容はどのようなものですか。</p> <p>森専門幹兼主査 中学校の生徒さんから事前に質問票を提出してもらい見学で来館した際にこちらの職員がその質問票に基づいて答えるというものです。</p> <p>佐藤一委員 資料の中にある職場体験等を「教育支援」という形でひとつの表にまとめるというのはどうですか。それからこども科学館の平成24～26年度の総入館者数推移についての表記も郷土資料館と同じ表記にさせていただきたいのですが。</p> <p>小野会長 今後検討の余地はありますか。</p> <p>牛山館長 表記については郷土資料館の書式に統一します。それから職場体験等については「教育支援」でまとめる方がよろしいでしょうか。</p> <p>佐藤一委員 職場体験は今後も増えていく一方だと思いますのでひとつの項目としてまとめる方がいいと思います。</p> <p>牛山館長 ではその方向で修正したいと思います。</p> <p>田野倉委員 こども科学館の実施状況報告にある講演会の内容については分かりませんが、出前講座がどのような形で行われているのか分からないので、今後実施日や内容について記載してほしいと思います。</p> <p>佐藤栄委員 こども科学館の実施状況報告にある工作・講座等の中に「科学実験ショー」というイベント名があります。科学館でこんなこともできるんだ！という興味を引きつけるという意図は</p>
-----------------------	---

わかりますし大切だと思いますが、子ども自身がなぜそういう実験結果になるのか、こういうことを知るためにはどのようにすればいいのかを考えさせるようなやり方を検討してもいいのではないかと思います。「ショー」という用語を使うのではなく、もう少し工夫して別の表現を使うなどしてもいいかなと思いました。

森専門幹兼主査 「科学実験ショー」は科学指導員 3 人で実施しています。実験ショーの 30 分の流れには起承転結があります。実験の原理についても解説を行っており、単に面白いだけで終わっているものではありません。「春休み特別科学実験ショー」につきましては博物館協議会の田野倉委員や大村委員に実施していただいているもので、これも原理の説明があります。講座の名称についてはあまり固い表記ですと参加していただけない気がしましたので、気楽に参加していただきたいという思いで考案しました。講座についての印象を説明させていただくと子どもさんは実験によって生じる現象に引き込まれるんですが、大人の方はなぜそうした現象が起こるのかという原理に興味を持ち、その現象が起こる理由がよくわかる内容だとお話しくださっています。子どもさんについてはお父さん、お母さんにフォローしていただいてご家庭で説明していただければと考えています。

藤岡委員 『宇宙の学校』はどのような形で実施されていたのでしょうか。全面的にお任せしている感じでしょうか。

森専門幹兼主査 JAXA（独立行政法人宇宙航空研究開発機構）が作成した工作や実験のプログラムを基に行なっています。

牛山館長 「子ども宇宙未来の会」から先生に来ていただき、事業的には市民ボランティアと学生ボランティアに協力していただき、館外で実施する事業となります。

藤岡委員 これは事業なのですか。学生ボランティアはどんなことをしているのですか。

牛山館長 はい。事業としてそれぞれの会場で八王子北高校生物科学部、東京工科大学応用生物学部の学生にボランティアとして参加してもらい、アシスタントをお願いしています。子どもさんは小学 1～3 年生を募集しています。こども科学館では広報活動を行ない、事務局をしている形になります。

藤岡委員 事業に協力しているボランティアの内訳人数は分かるように

	<p>した方がいいと思います。そして講演会については他で実施されているものと比べて集客の部分が全然違いますのでもっと集客の努力が必要な気がします。次に内容について見てみると圧倒的に天文分野が多い気がします。天文だけとは言いませんが生物や地学、化学の分野がマイナーになってしまっている。館内にプラネタリウムがあるから天文分野が中心になるとと思いますが、サイエンスドームと名乗るからには将来的にもっと他の分野を取り上げていった方がいいのではという気がします。</p>
小野会長	<p>天文以外について取り上げるというのは市民ニーズの調査等をした上で利用者の状況を把握しながら進めていくという形でお願いしたいと思います。</p>
吉田委員	<p>こども科学館、郷土資料館とも来館者数が減少する月がありますね。ファミリーで館を利用している傾向が見られます。その方たちがリピーターなのかそうでないのかを調べてみた方がいいと思います。それを調べるによりそれぞれの館の特色がわかります。来館者数の多少を問題にするのではなく、事業内容を検討する時期にきているように思います。</p>
牛山館長	<p>リピーターを増やすというのは我々サイドにとって最大の課題のひとつです。科学工作や通常の工作はリピーターが多いです。プラネタリウムもプログラムの変更を行っていますが、年4回ですので種類が豊富になるほどリピーターが増える傾向になるのではないかと考えています。</p>
田島課長	<p>まだ正式に決まったわけではありませんが、小・中学校との連携を模索しているところです。例えば総合学習で来館された生徒さんの発表資料を資料館に掲示して来館者に公開することであったり、資料館で所蔵している資料を学校に貸し出して学校の授業で活用してもらうことです。今後具体的なことが決まりましたら改めて報告させていただきます。</p>
小野会長	<p>では今後の展開に期待しています。</p>
藤岡委員	<p>両館の事業実施報告の表記についてですが、1日あたりの入館者数が記載されていてもいいと思います。</p>
田島課長	<p>年度当初の年間事業実施報告の際の資料には表記していますが今回のような年度途中の報告時には表記していませんでした。只今ご意見をいただきましたので今後検討いたします。</p>
大村委員	<p>私もこども科学館でボランティアをしているひとりですが、</p>

	<p>例えば「シャボン玉で遊ぼう」というイベントを実施する際に大学生のボランティアグループに協力していただいている程度お任せすることができるようだとこども科学館職員の負担が軽くなり、イベントの内容を広げることができるのではないかと思います。</p>
牛山館長	<p>現在でもボランティアの方々にはご協力いただいているので大変ありがたいのですが、個人単位ですとお願いすることが難しいため学校単位でお願いすることになると思います。</p>
吉田委員	<p>ボランティアには交通費や食事代は支給されないのですか。</p>
牛山館長	<p>はい。ボランティア保険に加入していただく（保険料を館が負担）のみとなっています。</p>
吉田委員	<p>学校ボランティアでは子どもと直接触れ合うことが勉強になるという経験の見返りのみで他に支給されるものはないと聞きましたが、せめてこども科学館に来館するための交通費だけでも負担できないかと思います。府中市も同じ状況でしょうか。</p>
小野会長	<p>ボランティアの経費を市が負担することになるとボランティアの意義が変わってきてしまいます。あくまでボランティアは市民の自主参加でやっていこうという形ですから有償でやっていただくとそれはボランティアとは変わってしまうのではないかと考えています。府中市でも同じような形をとってボランティアのみなさんにご理解いただいています。</p>
吉田委員	<p>ボランティアとして現場を任せてもらって活動できるということは市の職員に信頼されているということでもありますからそこに喜びを感じてやっていただいていると思いますし、本当にいい方が来てくれているのは事実ですが、その数を増やすというのは難しいですね。</p>
牛山館長	<p>今年の夏に参加していただいたボランティアの方々には得意な分野を担当したいと申し出てくれていまして大変好ましいことだと思っております。そのようにしていただくとボランティアの方々の満足度が高くなります。自分自身でやりたいことをやっていただくことでこども科学館の事業内容と合致すればいいと思いますが、通常の事業でご協力いただくというのは難しいと考えています。</p>
本田委員	<p>話が戻りますが、郷土資料館の事業で吉田委員がリピーター26年度にかけての入館者数が減少しているのは隣に消防署が</p>

	<p>建設中というのも理由のひとつだと以前うかがいました。完成したらさらに減少すると思っていますが、そのことについて何か対策は検討されていますか。</p> <p>田島課長 正直あれだけの大きな建物が建ってしまいますと通常の案内表示では館のアピールは難しいと思っております。市としましては新たな資料館建設に向けて動いています。具体的な場所や施設の規模についてはまだ決まっておりませんが、そういった根本的な対応を検討していきます。</p> <p>本田委員 資料館のコーナー展等の展示についてリニューアルされる度に見学させていただいていますがコーナー展の位置が分かりづらいです。見学順路としては最後に位置していますよね。リニューアルしていることをPRできるようにもっと目立つ位置に展示してはどうかと思っております。リニューアルした展示を来館者によりアピールしてもらえると嬉しいのですが。</p> <p>戸井主査 コーナー展ができるスペースというのは限られています。資料館の出入口から入って右側の階段下にコーナー展の案内表示がありまして、階段を上がっていただいて正面に位置するのが現在ですと新収蔵コーナー展になります。そういう意味では最短で見ただけの位置にあると考えております。例年実施している発掘成果展については年度によってボリュームが異なっておりますので場合によっては特別展示室の一部を使用して展示することもあります。</p> <p>展示についてアピールをとのご要望ですのもう少し大きな看板を使うなどしてアピールしたいと思います。</p> <p>佐藤栄委員 特別展「幕末の八王子」を見学させてもらいましたが、出入口近くに座っていらっしゃるのはガイドボランティアの方でしょうか。2人くらいいらしたのですが見学中に特に声をかけていただくことがありませんでした。大げさではなく簡単なこととお話できればと思ったのですがそういうことはできませんか。</p> <p>田島課長 過去に実際あった話ですが、ガイドボランティアから来館者に声をかけた際に「静かに見たいから声をかけないでほしい」と言われた事例があります。来館者それぞれのご意向を考慮し、「お気軽に声をかけてください 八王子市郷土資料館ガイドボランティア」と案内表示をして選択していただく形をと</p>
--	---

	<p>らせていただいています。ボランティアのメンバーは積極的に解説したいと思っている方が多いので、むしろ声をかけるのを我慢していただいているくらいですのでこちらのコンセプトをご理解いただければと思います。</p> <p>小野会長 私も両方の立場を経験しています。これがプロの方をお願いするというのであれば来館者の顔色や様子を見て解説が必要な方かそうでないかを見分けることができると思いますが、ボランティアの方々にはそこまで要求することはできませんし、本当に質問したい時に対応していただくという形でいいと思います。</p> <p>大村委員 こども科学館の講演会（全6回）があり、何度か参加していますが参加者が少ないと思います。とてもいい内容なので関心が少ないとは思えません。もし都心で同じ内容の講演会を実施したら会場がいっぱいになるのではないかと思うのでとてももったいないです。どうすればよいのか分かりませんが、何かよいPR方法を検討してみてもどうか感じました。</p> <p>6回目の「宇宙の謎に挑む超大型望遠鏡TMT③」は特に参加者が少ないのですが日程的なものが影響しているのでしょうか。</p> <p>牛山館長 広報はちおうじや市のホームページで宣伝していますが、こども科学館が子どもさん中心に来館していただいているという位置付けになっていることもあり、講演会といいますがと内容が重くなるという印象を市民の方が受けるのかもしれない。</p> <p>藤岡委員 横浜で同じ内容の講演会を実施すれば参加者は多くなります。八王子では関心が少ないという状況で敢えて関心を持っていただくために行なっているので、集客方法については考えなければならない課題ですね。以前にもお話しましたがこども科学館は子どもだけという印象を脱してもっと大人を集客しなければいけない気がします。</p> <p>来年は終戦から70周年、再来年は八王子市制100周年という節目の年を迎えるわけですね。たとえばそういった時期に合わせて何か事業を企画してはどうでしょうか。来年は天文分野でも何かありましたよね。</p> <p>森専門幹兼主査 皆既月食があります。</p> <p>藤岡委員 そういったイベントに合わせて何か催し物を実施する予定は</p>
--	---

	<p>ありませんか</p> <p>田島課長 今の時期というのはそういった話をするのが難しい時期でして、平成 27 年度予算概要が公表された後の次回会議の際にある程度のお話ができると思いますので申し訳ないですがそれまでお待ちいただきたいと思います。今お話いただいた件につきましては検討させていただきます。</p> <p>小野会長 では私の方からお話します。郷土資料館の特別展「幕末の王子」についてです。残念ながら昨年の同時期と比べると入館者数は少なかったとのことですが、今までとは切り口が違いました。八王子にこういう人がいた、こういう資料があったということではなく日本史、世界史の大きな歴史の転換点である「開国」に対して八王子という一地方がどんな影響を受けてどんな役割を果たしたかということを示してもらったということで非常によかったと思います。あとの課題はそれをどう展開させていくかということです。見学の際にしばらく展示室にいたのですが、その間見学に来た方はわずか 3～4 分で退室してしまう人が多くてじっくり時間をかけて見学される方が少ないのが残念でした。来館者にいかに見せるかというのは永遠の課題ですが子どもにわかる内容であれば大人にもわかる、その辺りを考慮していただいて展示の工夫を行なってもらいたいと思います。展示の仕方について気づいた点は実物資料と写真資料を同列に扱っている点です。博物館の展示というのは実物の資料が中心ですので写真とは分けて展示してもらおうということで学芸員の間でも検討していただきたいです。</p> <p>他にないようでしたら続いて佐藤一委員から「こども科学館と郷土資料館の来館者数から傾向を見たい」との申し出がありましたので発表をお願いしたいと思います。</p> <p>佐藤一委員 前回の博物館協議会においてこども科学館と郷土資料館の事業実績報告の中で入館者数の集計データが掲示されていましたが、以前から何かデータに対してはつきりしないものを感じていたので今回そのデータを基に「対象が一定の割合で増加または減少している」ことを知るために線型近似曲線を、また「データの変動を滑らかに表し、データのパターンや傾向を明確」にするために移動平均近似曲線を描いて検討してみます。</p>
--	---

—以降、プロジェクタとパワーポイントを使用した佐藤一委員による入館者数のデータ分析結果の発表が行われ、発表後、委員からの質問について佐藤一委員が回答を行なう。

小野会長 では今回の会議で事前配付いただいた資料について説明を事務局からお願いします。

森専門幹兼主査 こども科学館からは「はちとぴ」（ミニ地域情報誌年3回発行）を配付しました。今回「特集はちおうじふしぎサイエンス」の記事が掲載されていますがその中で3ページにわたってこども科学館の事業が紹介されています。

中村主査 郷土資料館からは特別展「宇津木向原発掘50周年」のリーフレット、資料館だより第96号、図録「幕末の八王子」、八王子文化財年報第8号、東京都から配布されました「1964年東京オリンピック・パラリンピック50周年」のパンフレットを配布しましたので、ご覧ください。

小野会長 では他にないようでしたら平成26年度第3回八王子市博物館協議会を終了いたします。どうも有難うございました。

